平成30年5月15日

平成30年度「書くこと」部会　　第1回総会資料

「書くこと」部会　平成 30 年度の研究の方向

書くこと部会部長：関市立桜ケ丘中学校　　加藤　尚子

１．平成２９年度の研究の成果と課題（全国大会ご指導より）

「確かに書く」こと部会

【研究主題】

相手・目的・場面状況に応じて，「確かに書く」能力の育成

～分かりやすく・説得力のある文章を書くことができるための指導の在り方～

・授業そのものが「分かる子に頼る授業ではなく，みんなで学びを進める授業」になった。題材設定が「書くこと」に対する使命感や意欲を駆り立て，相手意識・目的意識を一層強化していた。
・指導事項と生徒の実態に即して「何ができたらOKなのか」を明確にし，2つの例文を比較することを通して，説得力の増す書き方を生徒が探し，見付け，獲得するなど，自ら考える場面を設定できた。
・タブレット端末で再調査を行ったり，書き出しに困る生徒に補助プリントを示したりするなど，個に応じた指導・援助を豊富にし，充実させることができた。
・書くことへの抵抗感を少なくするために，様々な資料を与え，自分で課題を考えることを通して必然性を与えることができた。
・考えを分類・整理させるために，実際の刊行物を用いて「簡単に」「詳しく」をどのように書き分けているかを指導することができた。

今後に向けて

・**「取り上げた内容がふさわしいものであるのか」という吟味・検討**を大切にしていく。
・単元指導計画段階で，推敲の時間を多めに位置付けるなど，時間をきちんと確保することや，**生徒に語彙力を増やす指導を日常的に行っていく**ことが必要である。
・実践をカリキュラム化し，来年度以降も実践できる再現性の強いものにしていくとよい。
・**思考スキルの特性を踏まえて思考ツールを使っていく**とよい。

「豊かに書く」こと部会

【研究主題】

目的や意図に応じて，表現豊かな文章を書く能力の育成

～多彩な表現や個性的な表現を駆使し，主観性の高い文章を書く指導の工夫～

・「豊かに書くこと」の具体を示すことができた。学習指導要領で示される「文学的文章を書くことを通して，創作を指導していくこと」につながる提案ができた。
・「読み手に伝わる描写を工夫する」という指導の中心を単元を通して貫くことができ，それによって，生徒が「もっと読み手に伝わる表現にしたい」という思いに立って授業に臨むことができた。
・指導内容が曖昧になりがちな描写の工夫の学習で，生徒が何をするのか，どうなればよいのかをしっかりと考えて実践できた。

今後に向けて

・**評価の方法**をより明確にしていく。どのような目的でどのように直せばよかったのかということを，**生徒たちに明確にさせること**が大切である。
・「どんな目的で，どのような意図があって表現を工夫した」ということを生徒が言えるよう，**題材に適した相手意識**をもたせたい。
・**自分一人の力で文章が書けるようにする**ために，年間を通して，計画的に指導を位置付けることや，教師が与える支援を減らしていくことを考えたい。
・**授業で学んだことを実生活，社会生活で生かせるようにしていく指導**を行っていくことが大切である。

２．教育の今日的課題

次期学習指導要領が見据える2030年の社会は，先を見通すことがますます難しくなりつつある予測困難な時代であると予想されている。グローバル化や情報化が人間の予測を超えて加速度的に進展する中，子どもたちには，伝統や文化に立脚した広い視野をもち，志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を育んでいくことが求められている。

「答申」では，教育過程全体を通して育成を目指す資質・能力を，「生きて働く『知識・技能』の習得」，「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力』等の育成」，「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」の三つの柱に整理するよう提言がなされた。国語科において育成を目指す資質・能力を，「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とし，「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して育成すること」が，次期学習指導要領の国語科の目標に示されている。また，「答申」では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことで，質の高い学びを実現し学習内容を深く理解し，資質・能力を身に付け，能動的に学び続けるようにすることなどの提言がなされた。

学習指導要領改訂の前提となる中学校国語科の課題としては，全国学力・学習状況調査等の結果から，中学校では，**伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりする**ことや，**複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりする**こと，文章を読んで**根拠の明確さや論理の展開，表現の仕方等について評価する**ことなどが挙げられている。（次期学習指導要領より）

３．生徒の実態（平成２９年度全国学力・学習状況調査より）

平成29年度全国学力・学習状況調査では，「事象や行為などを表す多様な語句について理解すること」・「伝えたい事実や事柄について，根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味する点」に，依然として課題があるとされている。岐阜県においては，「事象や行為などを表す多様な語句について理解すること」や，「適切な言葉を考えること」，「表現の仕方について捉え，自分の考えを書くこと」や，「交流を通して自分の考えを広くすること」に課題が見られた。「平成29年度全国学力・学習状況調査　結果分析・指導改善資料」では，「書くこと」の指導において，**生徒が主体的に言葉を使うことができる指導**や，**互いの見方や考え方を踏まえながら，自分のものの見方や考え方を広げていく指導を工夫**していくことが必要であるとされている。

４．平成30年度　岐阜県中学校国語科研究会　全体研究より

【研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

願う生徒の意識と姿

魅力や必然性を感じ，主体的に学習課題の解決に向かい，確実に「育成を目指す資質・能力」に掲げた力を身に付け，「確かに分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもって，次時への学習意欲を高めることができる。

研究内容

①指導計画の工夫

（１）「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と，
　　岐阜県全域におけるカリキュラムマネジメントの推進

（２）学ぶ魅力・必然性のある教材開発

②指導・援助の工夫

（１）生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

（２）「どの子」にも「確かな学力」を身に付けるための手立ての工夫

③評価の工夫

生徒自身が50分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け

５．平成３０年度　書くこと部会研究の方向

【めざす生徒の姿】
・「書きたい」「もっと知りたい」と，魅力や必然性を感じ，見通しをもって主体的に学習に向かう姿。
・論理の展開や表現の仕方，効果について考えたり，吟味したりして，自分の考えを書く姿。
・対話や議論を通じて，自分のものの見方や考え方を広げ，自分の表現に生かしていく姿。
・「こうすると～な文章が書ける」「確かによくなった」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもつことができる姿。

書くこと部会研究主題

相手，目的や意図，場面や状況に応じて，考えが伝わる文章を書く能力の育成
～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

【研究仮説】
・「この題材・この時間でしか付けることができない力」とは何かを明らかにした上で，指導事項を明確にし，魅力や必然性のある題材を設定すれば，主体的に学習に向かう姿を育成することができる。
・仲間との対話や議論を通して，論理の展開，表現の仕方や効果について考えたり吟味したりする言語活動の設定を行い，個に応じた指導・援助を行えば，自分の見方や考え方を広げ，伝えたい内容を工夫して書く能力を育成することができる。

研究内容
（１）指導計画の工夫
①「言語活動一覧表」及び「言語活動具体化一覧表」をもとにした言語能力の明確化
②生徒が魅力や書く必然性を感じる題材の工夫
（２）指導・援助の工夫
①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導過程の工夫
②「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等，個に応じた指導・援助の工夫
（２）評価の工夫
①自己の高まりを実感できる評価の在り方

主題設定の理由

昨年度の全国大会の課題，今日的課題，全国学力・学習状況調査における生徒の実態，そして平成30年度中国研全体研究主題を受け，「書くこと」領域に求められることは，「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書く力」や，「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりする力」，「根拠の明確さや論理の展開，表現の仕方等について考えたり吟味したりする力」を，対話や議論を通じて身に付け，自分の見方や考え方を広げ，生かしながら工夫して書く能力だと考える。全国大会で示された「言語活動一覧表」及び「言語活動具体化一覧表」では，生徒が魅力や必然性を感じて書くことができるよう，付けたい力や指導事項を明確にし，必然性のある題材設定を行ってきた。今年度は，次期学習指導要領の指導事項と照らし合わせながら精度を高め，課題をもとに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて，論理の展開や表現の工夫，効果を考え，自分の考えをより工夫して書くための指導の在り方を研究していきたい。そのために，付けたい言語能力に応じて，学習形態，学習方法，学習過程，指導・援助，評価の在り方について実践を通して研究し，生徒に，相手，目的や意図，場面や状況に応じて，考えが伝わる文章を書く能力を育成していきたいと考え，本主題を設定した。

６．平成３０年度　「書くこと部会」活動計画

日　時	活動内容
5月15日	第１回研究部総会 ①研究部長および研究部員の紹介 ②研究構想の検討 ③「明日に生きる言語活動一覧表」をもとにした授業実践・加筆修正の分担 ④黒板写真ホームページアップの役割分担 ⑤８月夏季ゼミナールにおける実践発表者の決定
7月末までに	①黒板写真メール送付 ②夏季ゼミナール実践発表の検討
8月初旬	午前：第１回 明日の授業を考える会「授業相談」 午後：夏季ゼミナールにおける実践提案準備
8月20日	夏季ゼミナール ・全国大会授業者実践発表 「確かに書く」部会：加納中学校　　梅田　佳宏先生 ・研究構想の提案：部長 ・「書くこと」部会実践発表
12月	・「ぎふこくご」執筆（部長・部員１名）
12月下旬	第２回「明日の授業を考える会」
12月末までに	・黒板写真メール送付
2月中旬	第２回研究部総会 ①各研究部研究構想の検討と完成 ②来年度「明日に生きる言語活動一覧表」をもとにした授業実践・加筆修正の分担 ③来年度黒板写真ホームページアップの役割分担 ④来年度に向けて